

シンガポールの植生

藤女子中学校 芝池 怜央奈

〈きっかけ〉

シンガポールには都会というイメージが強くあり、極端に言えば植物がないのかと思っていたため、シンガポールの街中の様子や施設、環境政策について調べてみようと思った。

〈調査の結果〉

〔自然環境〕

熱帯雨林気候で、多湿で降水量が多く、気温は一年で22度から34度で推移する。明確な四季の区別はなく、乾季（4月～9月）と雨期（10月～3月）に分かれており、雨季には短時間で大量の雨が降るスコールがよくある。スコールのときは車の中から外が全く見えないほど雨が強い。また、シンガポールは国土の3分の1が緑に覆われている。

〔街中の様子〕

沢山の街路樹や大きな公園があるため緑がとても身近な存在だった。私はホストファミリーと一緒に朝早くからコニーアイランドという場所に行き、緑に囲まれながらサイクリングをした。どこもとても綺麗だと感じた。

〔施設など〕

ガーデンズバイザベイやボタニックガーデンなどといった植物園があったり、空港、動物園、バードパーク、ナイトサファリ、中国庭園、日本庭園といった庭園もあったりする。ちなみにボタニックガーデン（シンガポール植物園）はシンガポール初の世界遺産に登録されている。植物園などでは沢山の植物があり、植物について知るのにとっても良い場所だった。

〔自然保護区〕

いくつかの自然保護区があり、全く手付かずの熱帯雨林が広がっている。

〔シンガポールグリーンプラン 2030〕

2030年までに国を挙げて取り組むべき環境政策プランのこと。

サステナブルな未来に向けた環境の整備によってシンガポールの国民の生活を守り続けることを目的としている。例えば街路樹をさらに増やしていったり、一人一人のゴミや水の消費量、バスや地下鉄の積極的などを意識したり、太陽光発電などのクリーンなエネルギーを利用したりなどする。



←ガーデズバイザベイを
空から見た写真

シンガポールグリーンプラン→



〈まとめ〉

シンガポールは都市であるのに、とても自然が豊かで、国が積極的に政策を出したり、国民がそれを実現させようとしていたりするところに平和な国であるということが伝わってきた。私はこれから、身近にあるものから自然環境を守っていけるようにしていきたいと思った。

〈終わりに〉

実際に見に行ってみて分かったことや感じたことがとても多かった。ネットだけの情報では分からないことが沢山ある、ということが今回一番心に残っている。今後、気になったことには積極的に調べて、実際に行ってみるということを大事にしたい。